

北翔大学

学生と特別サポートルームの協働による 情報保障支援活動の発展～テイク講習会を通して～

背景・目的

背景

- 2016年4月1日より特別サポートルームが設置された。

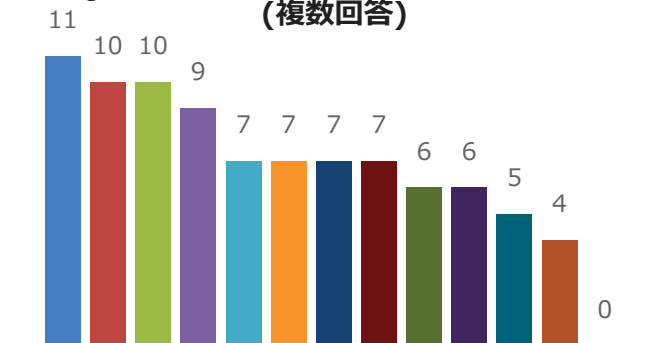
目的

- 学生と大学(特別サポートルーム)が連携して取り組んだ情報保障支援活動における工夫とその発展について考察していく。

方法(取り組んだ内容)

- LINEグループの作成
- オリエンテーションでの新規テイク募集
- テイク講習会の実施
- テイク講習会受講者へのアンケートの実施

Q3.テイク講習会に参加して学んだこと (複数回答)



- Q3-8 「ノートテイクの表記方法」について
- Q3-1 「聴覚障害」について
- Q3-4 「ノートテイク」について
- Q3-7 「要約の方法」について
- Q3-2 「支援」について
- Q3-3 「情報保障」について
- Q3-9 「連携入力の方法」について
- Q3-12 「支援者として活動するということ」について
- Q3-5 「パソコンテイク」について
- Q3-11 「自分の苦手なところ」について
- Q3-6 「北翔大学の聴覚障害学生支援」について
- Q3-10 「トラブルへの対処方法」について
- Q3-13 その他

参加者の声

「Q5.テイク講習会の感想」(一部抜粋)

- ユーザーが見やすい・わかりやすいと感じられる書き方やユーザーへの気配りについて意識できるようになった。
- 自分にテイクが務まるか不安だったが、講習会で練習を重ねるうちにテイクが楽しいと思えた。

テイク講習会の内容

ノートテイク講習会	パソコンテイク講習会
① 支援・聴覚障害 ② 要約・省略 ③ 実際の授業に対応するために	① タイピング ② IPtalkの使い方 ③ 連携入力 <small>※2017年度前期は、すでにノートテイクとして活動している学生を対象に行ったため、「支援・聴覚障害」については免除。</small>

模擬テイク(見極め試験)

合格

デビュー

結果・成果

- 学生(テイク・ユーザー)の休講や補講、代理テイクの依頼といった連絡をリアルタイムで行うことができた。
- 16名の学生からテイクの活動を行いたいという申し出があった。
- 講習会を受講した13名の学生が新人テイクとしてデビューすることができた。
- 15名の学生から回答を得ることができた。

考察

- 講習会を行うことで、テイクの基本的な方法やユーザーがどのような人なのかということを理解して現場に臨むことができる。
- 学生が主体となって行う講習会では、現場での経験談やアドバイスを学生から直接聞くことができる。そして、それらをふまえた実践や経験を現場で重ねることで、テイクの技術や自信を育むことにつながる。

今後の展望・課題

(「Q6.テイク講習会の改善点」の回答を含む)

- ユーザーの声(「もっとこうしてほしい」などのニーズや感じていること)を知りたい。
- 今後は、講師を担当できる学生も養成していかななくてはならない。
- 講師が一方向的に話すだけではなく、スライドの穴埋めなどを用いて、双方向のやりとりをして楽しく受講できるような工夫をしていかななくてはならない。

問い合わせ先

北翔大学 障がい学生支援室(特別サポートルーム)

担当 入江・鈴木 TEL: 011-387-3392 /メール: tokusapo@hokusho-u.ac.jp